

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101669		
法人名	有限会社 富永調剤薬局		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	岡山市南区川張1300-1		
自己評価作成日	平成30年9月 2日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101669-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390101669-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成30年9月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在の法人にて3年以上経過しており、当初からの利用者家族や周辺の社会資源との関係も着実に進んでいる。  
 また、『食べる』を大切にしつつ、危険のない限り行動制限を設けず、見守り等にて対応している。地域とのかかわりもより強くなってきており、地域の催しに参加した際には利用者のことを覚えて下さる地区住民の方も少しずつ増え、また近隣の商業施設に行く機会も増えているため、食材の購入に出かけた際に、職員や顔見知りの利用者様に挨拶の声かけをしてくださっている。  
 管理者の上司に看護師資格を持つ統括者がいるため、利用者様の医療面でのサポート体制がさらに整ってきている。そのため、入院された方の再入居、また看取り対応もできる限り対応している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の調剤薬局は幅広く介護事業を展開し、訪問看護、福祉用具販売等の強みを活かし、介護ベッド、体位変換機能付きエアマット、シャワーキャリー等の導入もスムーズに行われている。入居期間が長くなり、介護度が高くなってきている利用者もいるが、重度化や急な体調変化にも対応できる福祉用具や看護師の対応で、安心して暮らし続けることができている。看取りまで希望する家族も多く、職員も「ここで自分らしい生活を継続してもらいたい」と考えている。職員間のコミュニケーションも良く図られ、連携の体制が構築されている。アットホームな雰囲気での「けやき」で働きたいと入職した職員も多く、落ち着いた穏やかな支援に繋がっている。訪問日にその人らしい生活習慣を尊重した、束縛のない自由な暮らしの継続支援を垣間見ることができた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内、玄関ホールに掲示し、全職員がいつでも目にする事が出来、共有している。	朝礼で社訓を唱和し、意識付けを図っている。「私たちの目と耳はあなたにしっかりと向いているから。あなたの笑顔をみるために。あなたの心を知るために」という利用者に寄り添う理念は職員間で共有し、優しい対応が実践できている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の老人クラブに積極的に参加し、また運営推進会議の場で行政や地域との交流を図る為の情報交換を行っている。	公民館の催しや、老人会の川張サロンに出かけ地域住民と交流している。管理者は地域ケア会議に出席し、連携を図っている。音楽で楽しませてくれるボランティアの訪問もあり、利用者の生活の活性化に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	勉強会、委員会等を設け、研修で学んだことも併せて運営推進会議等で発表し、地域の方々へ理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現況報告、勉強会、委員会の内容をお伝えし、各参加者からの意見を頂きサービスの向上に努めている。	市指導課、包括支援センターの双方の職員が出席し、グローバルな視点で話し合うことができるようになった。町内会長、民生委員、家族、看護師資格を持つ介護事業部課長も参加し、サービス向上に向けて話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、地区の町内会長、民生委員、岡山市事業者指導課、地域包括支援センターの方に参加して頂いており、地域を巻き込んでケアへの支援体制をとっている。	運営推進会議への参加も得られ、事業所の実情も理解してくれている。書類提出や、質問・相談等も郵送や電話ではなく、出向いて行くようにしている。顔馴染みの関係作りを心掛け、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会、委員会、研修を設け、また、外部研修を通じ身体拘束についてだけでなく、拘束というものについての知見を深めて、あらゆる拘束をしないケアを実践している。	研修や勉強会を行い、職員が十分な自覚をもって、声かけや行動ができるように周知を図っている。不適切と思われる言動があれば、その都度注意を促している。行動制限はせず、抑圧感のない自由な暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修、勉強会、日常のミーティング等で啓発を行い、全職員が虐待について正しい理解をし、虐待が見過ごされない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、外部コンサルタント等への相談を含め、権利擁護に関して正しい理解を深められるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約内容について詳細に説明させて頂き、理解を十分に得て頂いた上で締結するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に積極的に意見、要望等を聞き取る様に心掛けている。また、運営推進会議でも意見交換を行い、要望を施設運営に反映させられるように努めている。	家族とはできるだけ顔を合わせて話すようにしている。家族から食事管理や安全面での意見を聞き取り、速やかな対応に努めている。栄養補助食品の紹介を行い、安全な入浴のための浴室改装を計画している。シャワーキャリーも購入している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回のスタッフミーティングだけでなく、思いついた意見や要望は随時伝達してもらう様に周知している。	現場の職員との距離は近く、何でも話し合える雰囲気があり、管理者は職員の思いを実際に見て感じ取る事ができている。職員が疲れをため込むことがないように、時間外勤務を少なくする等、働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話し合いの場や個別面談を行うことで、意見や不満の吸い上げを行い細かな対応を行うことに心掛けている。またできる限りではあるが有休消化を促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作り、職員のスキルアップを図れる体制になっており、研修に対しての支援体制もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流施設交流が出来る機会を設け、お互いのサービス向上に努めたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプラン作成時にご本人からの要望意見を聞き、また当施設の職員の意見も参考にしながら施設での生活が安心して過ごせる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	当施設で生活をして頂く上での要望を聞き、専門的知識を踏まえてケアプラン作りをするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴の情報収集や日々の体調管理を踏まえて、必要に応じてご本人やご家族と相談しながら、随時必要な事を見極めながらケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務的なケアを見直し、本当の利用者目線とは何かを考えながらケアを行う様にし、出来ることはお願いをすることで利用者との関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の小さな変化も電話や口頭にて伝え、また一時帰宅時や昔のことなどの小さな情報も聞き取り、家族と施設とが情報を共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限は設けず、知人の方や地域の方々との交流が出来る様に努めている。	家族の半数以上はよく面会に来てくれており、一緒に散歩や買い物にも出かけている。近くの直売所に出かけ、地域の人や店員とも顔馴染みになり、声もかけてくれる。本人が暮らしてきた地域社会との関わりも継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の日常過ごされるポジション(テーブルでの席の場所)の最適な状態を考え、利用者同士でトラブルなく、仲の良い関係が作れるようにサポートしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に、相談があれば対応させてもらうことを伝え、良い関係でいられるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の介助にて得た利用者本人の思いを最大限に尊重し、カンファレンス等で検討したことを通じて自立支援を行っている。	職員と1対1で過ごす夜勤時等にゆっくり話す中から本音を聞き取るよう努めている。表出が困難な場合は表情や行動から探り、カンファレンスで検討している。居室でお茶を飲んだり、食事をしたりする人もいる。一人で散歩に出かける人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を得て、その方の過ごしてきた生活や環境を施設内での生活とどう融合していくかを考えてケアを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の管理に加え、利用者の生活の様子を細かに観察し、『出来る事はして頂く。出来ないことは支援する』ことを徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやケアカンファレンスを頻回に行い、個人の判断で行うケアではなく、チームケアを心がけている。	3ヶ月毎にモニタリングし、6ヶ月で見直しをしている。申し送りノートには日常生活・医療・注意事項を色分けして記入し、現状把握しやすくなっている。週1回のカンファレンス、申し送りノートを活用し、現状に即した計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や申し送りノートに記録を詳細に残し、職員が情報を完全に共有できる体制を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族から要望・意見を随時聞き取り、心境の変化などにも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりの状況にあった地域資源を考え、利用者ごとにあった交流等が出来る様に努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状に応じ、ご本人、ご家族の要望を聞き、随時かかりつけ医等の受診介助を行っている。	ほとんどの利用者が提携医を選んでいるが、以前からの病院をかかりつけ医とする人もいる。他科受診にも職員が付き添い、医療情報の共有を図っている。2週間に1回往診、週に1回看護師の訪問があり、24時間の医療連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師とは緊密に連携を取っており、利用者の細かな変化を違った観点から発見できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には速やかに対応が取れるように病院と連絡を密にし、情報交換、共有が取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応については、必要に応じて随時利用者、利用者家族とインフォームドコンセントを重ね、書面、口頭にて施設において出来ること、出来ないことを丁寧に説明したうえで、同意を得るようにしている。	かかりつけ医・看護師の協力が得られ、終末期のケアに積極的に取り組む本社の方針もある。できるだけ長く「けやき」で暮らし続けることができるように考え、介護ベッド、エアーマットの購入をしている。入居期間が長くなり、看取りまで希望する家族も多い。現在重度の人も2人いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を行ったり、日々啓発を行う事によって不測の事態への即応力を身に着けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い、また災害対策についての勉強会や研修を設けて災害時に対応できるようにしている。	4月と10月に、火災想定で隣接する広場までの避難訓練を行っている。運営推進会議、地域会議でも避難場所や、迅速な連絡方法の検討を行い、災害対策を話し合っている。	町内会長・民生委員・川張サロンでの繋がりを活かし、地域の人達に協力を依頼して欲しい。避難訓練に参加し、現状理解と共に避難後の見守り等、役割を明確にした協力体制の構築に期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を最大限尊重し、尊敬の念を持つと共に、接遇についても自己研鑽や勉強会を行い、クオリティの高いケアを目指している。	その人らしい尊厳ある姿を大切にし、必要以上の介助を避け、信頼関係を築くように取り組んでいる。入浴や排泄介助は同性職員で対応するよう配慮している。プライバシー保護にも留意し、居室のドアの開閉に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを閉じ込めてしまわずに、表出出来る様な雰囲気作り、職員との関係が作れるよう働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各々の意見や希望を聞き、生活習慣にあった時間の使い方が出来る様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望を聞きながら、ご本人の身体能力に合わせた身だしなみ・おしゃれ出来る様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事がただ食べる事のみ場所になってしまわない様に、職員も一緒に食事をするように心がけ、会話を楽しみながらの食事時間を提供できるようにしている。	日曜日の昼食は手作り料理を提供している。希望のメニューを聞き、寿司や丼物で変化を楽しんでもらっている。クッキーやドーナツ等の手作りおやつも利用者の楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水に関する勉強会を行い、高齢者にとっての水分摂取の大切さを職員全体で認識している。そして、ひとりひとりにあった食事量、食事法、水分量、摂取のタイミングなどを考えながらのケアを実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご本人や職員介助にて口腔ケアを実施し、また食事の際にも口腔内の状態観察を行い状況把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の能力にあった支援が出来る様に努めている。意思伝達が困難な方には定期的な声掛けを行い、排泄支援を行っている。	一人ひとりの能力や排泄パターンに合わせて、見守りや確認、誘導を行い、できるだけトイレで気持ち良く排泄できるように支援している。情報は職員間で共有できており、状況に合わせて排泄用品の検討を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、毎朝の申し送り時に排便状況を詳細に共有している。牛乳等の飲用を随時行うことで、便秘の解消に繋がればと考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在は施設の都合で入浴時間や曜日を決めているが、業務との兼ね合いで希望に沿える部分は叶えられるようにしたい。浴室の改装によりさらに個々の支援に繋がればと思う。	日曜日を除いて毎日午前中に、3人を目安に入浴している。入浴が嫌な時は、次の日の入浴やシャワー浴での対応もでき、無理強いないようにしている。一人ひとりの時間をゆとり取り、用意や着脱もその人のペースで行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人ごとの生活習慣を尊重し、気持ちよく休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	母体が調剤薬局であり、個人ごとにかかりつけ薬局、かかりつけ薬剤師を設定していることで、服薬管理、服薬支援については丁寧な対応が行えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりに合った楽しみ、役割を見つけ、日々の生活が単調になってしまわない様に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	イベントを企画し、体調を考慮しながらではあるが、外出を楽しんでいただいている。また、日々の買い物等にも、同行可能な利用者には同行してもらい、社会と隔絶してしまわないようにしている。	花見や秋の祭り、季節の催し等で、近くの直売所に出かけている。おやつや日用品の買い物にも出かけている。重度の人もいて、全員での外出は難しくなったが、外食したりペットショップに行ったり等、本人の希望に添った個別の外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的に金銭管理は事務所で一元管理している。しかし、外出等の際には自分のお金を自由に使うことを楽しんでもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意思を尊重し、電話・手紙の制限は設けず、その都度要望があれば行えるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に過ごせる様に、温度管理を行っている。電灯を明るすぎない、温もりのあるものを取り入れている。また、外光を取り入れるように天窓をつけ、自然光も使っている。	食事後は床を拭き、清潔保持と安全確保に努めている。手すりやドアノブ等、手の触れる場所の消毒も欠かさず行っている。ソファや窓際のテーブルセットで、気分を変えて寛ぐこともできる。ペットの亀を眺めたり、えさをやったりして、和みの時間を過ごす人もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、外や中庭を眺められるような場所に小さい机、円卓、椅子を設置し、一人になりたいとき、少人数で会話を楽しみたいときに使用できるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前にご本人やご家族と相談し、使い慣れたものや好みのものがあれば入所時に持参頂く様お願いし、入所後に快適に過ごして頂けるようにしている。	安全な動線を考え、家具の配置をしている。生活習慣や居心地の良さを考慮し、過干渉はしないようにしている。カーペットに炬燵を持ち込み床でくつろいで過ごす人や、壁に書き込み入りの家系図を貼り自室の趣を大切にしている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特別なものは置かず、一般的な家具を使用している。肘付椅子により、立ち上がり時の支持がしやすいようにしている。		